

くらしのみちゾーン・トランジットモールの社会実験

【施策の概要】

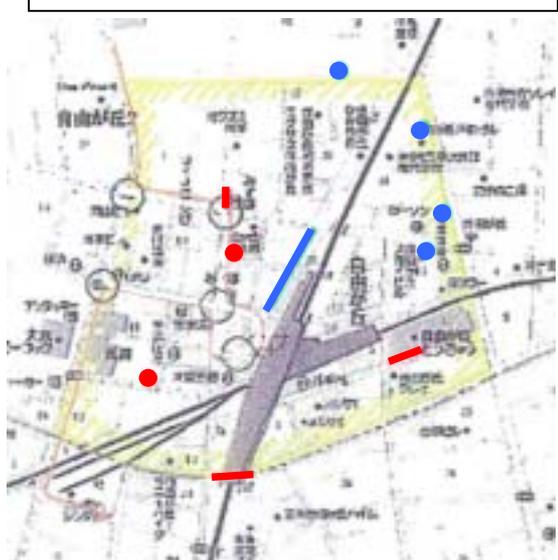
「くらしのみちゾーン」は、外周を幹線道路に囲まれている等のまとまりのある住区や中心市街地の街区などにおいて、警察と連携して一般車両の地区内への流入を制限して身近な道路を歩行者・自転車優先とし、併せて無電柱化や緑化等の環境整備を行って、交通安全の確保と生活環境の質の向上を図ろうとする取り組みです。

「トランジットモール」は、中心市街地のメインストリート等で警察と連携して一般車両の利用を制限して、歩行者・自転車とバスや路面電車などの公共交通機関の利便性を高め、街のにぎわいを創出しようとする取り組みです。

【代表事例】

東京都目黒区(トランジットモールと楽しく、安全に歩ける歩行空間創出実験) 道路幅員が狭く、違法駐輪があふれている自由が丘地区において、歩行環境の向上や交通利便性の向上を図るため、自動車進入抑制、共同集配システムの導入、小規模駐輪場の分散設置などを実施し、その有効性や課題について検証を行う。

歩行環境の向上と交通利便性の向上

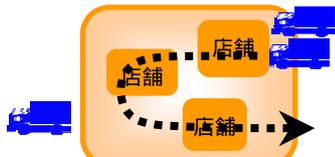


凡 例

- 仮設駐輪場
- 既設小規模駐輪場
- バリアフリー実験
- 共同集配の拠点
- 歩行者天国エリア
(休日・祭日 15~18時)
- 誘導員

共同集配システム

【現状】



集配方法：各個別店舗へ各物流会社からの集配
集配時間：各個別店舗、物流会社によりいろいろ

【共同集配】



集配方法：共同集配場で荷物を集約
一社によりゾーン内サテライトを經由し店舗へ配送
集配時間：時間規制により走行時間を集約

オープンカフェ等地域主体の道活用に関する社会実験

【施策の概要】

既存の公共施設を、民間や地域の知恵で有効活用することは重要であり、なかでも、道路の利活用については、街に活気を与えるイベントやオープンカフェなどの取組みが各地で増加しつつあり、道路は多様な住民活動の場として高いポテンシャルを有すると考えられています。

「オープンカフェ等地域主体の道活用」は、地域の住民団体やNPO等が、地域のニーズや実情に応じて、道路空間をより柔軟に活用するなど、街の賑わい創出などの観点から、道を活用して継続的に行う地域活動（オープンカフェ、美化活動など）の円滑化を図る取組みです。

【代表事例】

岩手県盛岡市（盛岡シネマタウン社会実験）

多数の映画館が立地する中心市街地において、「歩いて楽しむ街」として街の魅力を向上させるため、映画館通りの映画祭等とあわせて、大通りのバストランジットモールとオープンカフェを実施し、その有効性や課題について検証を行う。また、周辺駐車場へのレンタサイクル配備し、中心市街地へのパークアンドサイクルライドの促進を図る実験を実施し、その有効性や課題について検証を行う。

